

社会科授業のニューノーマル！！学習者主体の学びによる情報活用能力の育成

高森町立高森東学園義務教育学校 教諭 北 慎一郎

キーワード：クラウド活用，学習者用デジタル教科書，プログラミング学習

実践の概要

中学社会科においてワークシートやポートフォリオをデジタル化し、クラウド上で活用させ「世界一周旅行」を企画した。プログラミング学習と連動し「世界一周旅行」をプレゼンするプログラムを作成した。社会科における学習者主体の学びを目指した実践である。

1. 目的・目標

(1) 本校の実態と研究の視点

GIGA スクール構想による環境整備が進む以前から、本校では1人1台タブレット端末や校内のネットワーク環境が整っている。Society5.0時代に生きる子供たちに必要な資質能力を育成することを目指し、研究を進めている。本校生徒の多くは1分間に100文字以上入力ができるタイピングスキルなど高い情報活用スキルをもち、日常的に授業や家庭学習において1人1台タブレット端末の活用が図られている。今回、学習者主体の学びの実現を図るために、このようなICT環境や生徒の情報活用スキルを基盤とした単元デザインや授業構想を行った。

(2) 学習者主体の学びに向けて

コロナ禍を契機として、より学習者主体の学びを実現するために以下の目的とねらいにおいてICTを活用した。

- ①ワークシートをデジタルシートにすることで生徒が学習者用デジタル教科書等から必要な情報を選択活用し、課題解決に向けて主体的にまとめていけるようにする。
- ②学びの見通しをもたせ、学びの経過を蓄積する単元を通したデジタルポートフォリオを作成し、毎時間の課題解決や単元のゴールに向け、主体的な活用を図る。
- ③プログラミング学習と社会科での学びを連動させたプレゼンテーションを行うことで主体的な情報発信の場を設定し、情報活用能力の育成を図る。

2. 実践内容

2.1 単元の導入

生徒が単元のゴールに向けて見通しをもって学びを進めていくためにGoogleJamboardをデジタルポートフォリオとして活用した。世界のさまざまな地域の写真資料を貼付して示し、地域によって衣食住などの人々の暮らしの様子が違うことを捉えさせた。そこから「人々の暮らしはなぜ場所によって異なるのか」という探究課題を設定し、単元のゴールとして「世界一周旅行を企画しプレゼンする」ことを位置付け、学びの動機付けを行った。単元のゴールに向けてペアで3つのグループをつくり、協働してデジタルポートフォリオを作成していくことを確認した。

2.2 単元の展開

第2時からは、1時間の授業の流れに沿って気候帯ごとに学習を進めていった。導入では、デジタルポートフォリオに貼付した気候分布図をもとに問いを生み出し、本時の課題を設定した。展開前段では、Googleスライドをデジタルシートとして活用した。前時と本時の気候帯の自然環境や人々の暮らしを比較しながら調査し、デジタルシート上の表にまとめた。展開後段では自然環境に適応して生きる人々の衣食住を柱とした暮らしの工夫について考察し、デジタルシートに資料と言葉で整理した。その際、生徒たちは学習者用デジタル教科書や資料集、イ



写真1 デジタルシートに整理

<p>【単元の学習内容】 生徒数6名(第7学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●社会科地理分野 単元名「世界各地の人々の生活と環境」 ●単元のゴール:「世界一周旅行を企画し、プレゼンしよう」 ●探究課題:「人々の暮らしはなぜ場所によって異なるのか」 ●単元指導計画(全体時間11時間) <p>単元の導入</p> <p>(1)写真資料の比較から単元のゴールと探究課題を設定する(1時間)</p> <p>単元の展開</p> <p>(2)各気候帯地域の自然環境と人々の生活の特色について考察し、まとめる(6時間)</p> <p>(3)気候帯や気候区の特色について表にまとめる(1時間)</p> <p>(4)世界の様々な宗教や宗教と関わり深い生活について調べ、分布の特色についてまとめる(1時間)</p> <p>単元の終末</p> <p>(5)これまでの学習をもとに「世界一周旅行」を企画し、提案する(2時間)</p>	1時間の授業の流れ(単元の展開部分)		
	学習過程	ICT活用	
	導入	課題設定「～帯の人々はどのような生活をしているのか」	各気候の気候分布図をデジタルポートフォリオに貼り、提示する
	展開前段	前時の気候帯と比較し本時の気候帯の特色について表にまとめる	前時の気候帯の表と比較し調べたことをデジタルシート上の表にまとめる
	展開後段	自然環境に適応して暮らす人々の工夫について考察し、共有する	必要な資料を学習者用デジタル教科書や資料集からトリミングし、デジタルシート上に整理する
終末	本時の学習を振り返り、課題解決する	世界一周旅行で紹介したいことを構想し、本時のデジタルシートからデジタルポートフォリオに整理する	

インターネットを使って調べながら、課題解決に向けて必要な写真や図などの資料をトリミングし、デジタルシートに貼付し、整理した（写真1）。そのデジタルシートをもとに考察したことを全体で共有した。授業の終末では、本時の学習をもとに「世界一周旅行の企画」に向けて、ペアで紹介したい気候帯地域の魅力的な暮らしについて必要な資料をデジタルシートからデジタルポートフォリオに貼付し企画を構想する資料として整理させた（図1）。



図1 生徒が整理したポートフォリオ

また、各グループでまとめたデジタルシートから、自然環境や暮らしについて教師が表に整理し、デジタルポートフォリオ上にある各気候帯の分布図に貼付した（図2）。この手立てを行うことで、生徒が各気候帯の地域の気候分布や暮らしと比較しながら考察・構想しやすくなることをねらった。



図2 教師が整理したポートフォリオ (GoogleJamboard)

2.3 単元の終末

単元の終末では、ペアで構想した「世界一周旅行の企画」についてプレゼンテーションを行うことで学習をまとめた。「世界一周旅行」を企画する上で必要な情報は、これまで作成してきたデジタルポートフォリオに整理されており、スムーズに企画を構想することができた。プレゼンテーション資料を作成する場面では本校4年生がプログラミング学習の際にScratchで作成した県内の観光地を巡るプログラム「ドライブツアーマップ」を作り変えて活用した。このプログラムは、あるポイントに触れると説明スライドが表示されるというプログラムで、それをもとに世界各地の地域を巡る「世界一周旅行」プログラムを作成した（写真2）。プレゼンテーションに向けて単なるスライド作成ではなく、これまでのプログラミング学習の積み重ねをもとに、創意工夫しながら、プレゼンテーション資料を完成させた。完成したプレゼンテーション資料をもとに、「世界一周旅行の企画」について3つのグループがプレゼンテーションを行った（写真3）。



写真2 Scratchでプログラムを作成



写真3「世界一周旅行企画」をプレゼン

プレゼンテーションの様子を動画で撮影し、校内限定のYouTubeに動画をアップし、他学年の生徒や教職員にも見てもらい、コメントをもらう取組を行った。その際、9年生には憲法の学習における「表現の自由」の学習と結び付け、Netモラル教材を活用し、不適切な書き込みがもたらす影響を考えさせ、ネット上にコメントを書く際のモラルの育成を図った。

3. 成果

学習者主体のICT活用を図った社会科の授業実践により、教室での学びが家庭学習や他教科、他学年とのつながりをもたらし、クラウドを活用することで、デジタルシートの編集やプレゼン発表に向けたプログラミングを家庭で主体的に学習してくるなど学び方に変容が見られた。生徒たちからは教科書や資料集、インターネット等複数の媒体から主体的に資料を収集しそれらをもとに考察を深める姿が見られた。また、社会科で身に付けた情報活用スキルは他教科でも生かされるようになった。学習後の7年生の生徒の感想では「友だちと一緒に学習する時間が増えたのでおもしろかった」「自分たちオリジナルのプレゼンがとても気に入った」「プレゼンをみてもらい、コメントをもらえてうれしかった。次はもっといい企画やプレゼンができるようがんばりたい」など学習に対する前向きな言葉がみられた。

4. 今後に向けて

学習者主体の学びへの授業改善は、子供たちのより主体的な学びへとつながった。また、今回の実践を通して、学習者主体の学びを実現するためには学習者と授業者双方の情報モラルが不可欠だと感じた。ニューノーマルにおける新たな学びに向けてICT活用の取組の更なる充実を図るとともに、情報モラルに関して学習させる機会を様々な場面で仕組んでいく必要があると感じた。